

第3章

述目句

p.88の(4)

本章では、中国語の述目句について考察する。まずは、述目句の述語と目的語との意味関係、すなわち目的語のさす実体の深層格の多様性を論じる。次に、実体の深層格のあり方を示す格フレーム、及び格フレームの53タイプについて説明する。その上で、出現頻度の高い、或いは日本語に比べれば、特徴のある二項動詞の格フレームの6タイプを選んで、それらを持つ二項動詞が構成する二項動詞性主述句、及びそれに含まれる述目句の意味構造を分析する。

1 述目句とは

“述賓短語”，すなわち述目句は，(1)に示すように，複数の語句が述語と目的語の関係で結合して構成される句である¹。一般に，述目句の述語は，動詞性語句である。

- (1) a 洗 衣服
 洗う 服 (服を洗う)
- b 画 人像
 描く 肖像 (肖像を描く)
- c 去 学校
 行く 学校 (学校へ行く)
- d 抽 烟斗
 吸う パイプ (パイプでタバコを吸う)

1 以下，“ ”で述語を示し，“~~~~”で目的語を示す。

- e 下 大雪
降る 大雪 (大雪が降る)
- f 是 学生
だ 学生 (学生だ)
- g 教 我 外语
教える 私 外国語 (私に外国語を教える)

2 述語と目的語との意味関係

述目句の述語と目的語は、多種多様な意味関係にある。例えば、(1) では、

a の“衣服”は“洗”の表す動作の「受事」である。

受事=自発的な動作, 行為に関わる客体

b の“人像”は“画”の表す動作の「結果」である。

結果=生じたり, 引き起こしたり, 達成したりした結果

c の“学校”は“去”の表す動作の「処所」である。

処所=事態の起こる場所, 状況, 及び経過域

d の“烟斗”は“抽”の表す動作の「工具」である。

工具=使われる道具

e の“大雪”は“下”の表す動作の「施事」である。

施事=自発的な動作, 行為, 状態の主体

f の“学生”は“是”の表す状態の「系事」である。

系事=主体の類別, 身分, 役割

g の“我”（間接目的語）と“外语”（直接目的語）は“教”動作の「与事」と「受事」である。

与事=利害関係にある客体

述目句の述語と目的語との意味関係には、以上のほかに、「方式」、「目的」、「時間」などもある。例えば、(2) では、

a の“仿宋体”は“写”の「方式」である。

方式=使われる方法, 形式

b の“博士”は“考”の「目的」である。

目的=達成しようとする目標

c の“春节”は“过”の「時間」である。

時間=事態の起こる時点, 或いは継続する期間

- (2) a 写 仿宋体
書く 宋朝体 (宋朝体で書く)
- b 考 博士
受験する 博士後期課程 (博士後期課程を受験する)
- c 过 春节
過ごす 春節 (春節を過ごす)

3 格フレーム

こうした述語と目的語との意味関係は、述語の表す事態において目的語のさす実体が担う役割、すなわち実体の深層格のことである。実体の深層格は、多種多様であるが、恣意的ではなく、述語の中核となる動詞の格フレームによって決定されている。本節では、格フレームについて論じる。

3.1 必須の実体と必須格

述語の表す事態の成立に必須の実体と非必須の実体がある。例えば、(3)¹では、“洗”の表す事態の成立に必須の実体“我”や“被罩”などと、非必須の実体“明天”や“河边”などがあると考えられる。表1を参照されたい。

- (3) a 我 || [明天] 洗 被罩
私 明日 洗う 布団カバー (私は明日、布団カバーを洗う)
- b 几个 妇女 || [在 河边] 洗 东西
いくつ 女性 で 川 ほとり 洗う 物
(数人の女性が川のほとりで物を洗う)
- c 她 || [用 搓衣板] 洗 (完 了) 衣服
彼女 で 洗濯板 洗う 終わる た 衣服
(彼女は洗濯板で衣服を洗い終わった)
- d 我 || [明天] [在 河边] [用 搓衣板] 洗 衣服
私 明日 で 川 ほとり で 洗濯板 洗う 衣服
(私は明日、川のほとりで洗濯板で衣服を洗う)

表1 (3) における必須・非必須の実体

	必須の実体	非必須の実体
(3a)	我, 被罩	明天
(3b)	几个妇女, 东西	河边
(3c)	她, 衣服	搓衣板
(3d)	我, 衣服	明天, 河边, 搓衣板

このような事態の成立に必須の実体の深層格は必須格であり、非必須の実体の深層格は任意格である。

必須格と任意格にも様々な種類がある。(3) では、

必須格には、“我”、“几个妇女”、“她”の 深層格「施事」と、“被罩”、“东西”、“衣服”の 深層格「受事」がある。

任意格には、“明天”の 深層格「時間」、「河边」の 深層格「処所」、「搓衣板」の 深層格「工具」がある。表2を参照されたい。

1 以下、“〈 〉”で補語を示す。

施事＝自発的な動作，行為，状態の主体
 受事＝自発的な動作，行為に関わる客体
 時間＝事態の起こる時点，或いは継続する期間
 処所＝事態の起こる場所，状況，及び経過域
 工具＝使われる道具

表2 (3) における必須格と任意格

	必須格		任意格		
	施事	受事	時間	処所	工具
(3a)	我	被罩	明天		
(3b)	几个妇女	东西		河边	
(3c)	她	衣服			搓衣板
(3d)	我	衣服	明天	河边	搓衣板

3.2 格フレームと格フレームのタイプ

(3) の動詞“洗”と必須格「施事」, 「受事」は, 次のような“格框架” (格フレーム) を構成している。

施事＋洗＋受事

すべての動詞が格フレームを持っているが, 動詞の性質, 並びに必須格の種類及び数によって, それらの格フレームは, いくつかのタイプに分類することができる。

例えば, (4a) の“打”は “施事＋打＋受事” という格フレームを持ち,
 (4b) の“踢”は “施事＋踢＋受事” という格フレームを持つ。

(4) a 哥哥 || 打 弟弟
 兄 毆る 弟 (兄が弟を毆る)

b 运动员 || 踢 球
 スポーツ選手 蹴る ボール (スポーツ選手がボールを蹴る)

しかし, “洗”, “打”, “踢”の性質 (自発的であることなど), 必須格の種類 (施事と受事), 必須格の数 (2つ) が同じであると考えられるので, 上の格フレーム “施事＋洗＋受事”, “施事＋打＋受事”, “施事＋踢＋受事” は,

施事＋V＋受事 (V＝自発的な事態を表す二項動詞。事態の影響が直接客体に及ぶ) というような格フレームのタイプに分類することができる。

格フレームのタイプは, 数多くある。《(人机通用) 現代汉语动词大词典》(林・王・孫(編) 1994) は, 2000余りの動詞の深層格を詳細に記述した上で, それらの格フレームを53タイプに分類している。

以下において, 林・王・孫(編) (1994: 23-34) に基づいて格フレームの53タイプ (<1>～<53>) を説明する。

一、一項動詞の格フレーム

1. 一項自動詞の格フレーム

一項自動詞: 自発的な事態を表す一項動詞 (事態の影響が直接客体に及ばない)

<1> 施事+V

例: 人们 奔跑

人々 走る

(人々が走る)

2. 一項内動詞の格フレーム

一項内動詞: 非自発的な事態を表す一項動詞 (事態の影響が直接客体に及ばない)

<2> 当事+V

例: 女孩 害羞

女の子 恥ずかしがる

(女の子が恥ずかしがる)

二、二項動詞の格フレーム

3. 二項他動詞の格フレーム

二項他動詞: 自発的な事態を表す二項動詞 (事態の影響が直接客体に及ぶ)

<3> 施事+V+受事

例: 电工 安装 空调

電気工事士 取りつける エアコン

(電気工事士がエアコンを取りつける)

<4> 施事+V+結果

例: 爱迪生 发明 电灯

エジソン 発明する 白熱電球

(エジソンが白熱電球を発明する)

<5> 施事+V+受事または系事

例: 演员 演 喜剧

俳優 演じる 喜劇

(俳優が喜劇を演じる)

例: 演员 演 主角

俳優 演じる 主役

(俳優が主役を演じる)

<6> 施事+V+受事または工具

例: 顾客 照 脸

お客 映す 顔

(お客が顔を映す)

例: 顾客 照 镜子

お客 映す 鏡

(お客が鏡に映す)

<7> 施事+V+处所または受事

例: 学生 填 履历表

学生 記入する 履歴書

(学生が履歴書に記入する)

例: 学生 填 姓名

学生 記入する 氏名

(学生が氏名を記入する)

日本語構造伝達文法・発展D

<8> 施事+V+受事または方向

例:小伙子 望 对方
若者 眺める 相手 (若者が相手を眺める)

例:小伙子 望 外面
若者 眺める 外 (若者が外を眺める)

<9> 施事+V+受事または範囲

例:售货员 量 布
店員 測る 布 (店員が布を測る)

例:售货员 量 胸围
店員 測る バスト (店員がバストを測る)

<10> 施事+V+受事または結果

例:工人 挖 土
労働者 掘る 土 (労働者が土を掘る)

例:工人 挖 坑
労働者 掘る 穴 (労働者が穴を掘る)

<11> 施事+V+受事または処所

例:战士 堵 水
兵士 遮る 水 (兵士が水を遮る)

例:战士 堵 窟窿
兵士 塞ぐ 穴 (兵士が穴を塞ぐ)

<12> 施事+V+受事または目的

例:工人 淘 大米
労働者 選り分ける 米 (労働者が米を選り分ける)

例:工人 淘 金
労働者 選り分ける 金 (労働者が金を選り分ける)

<13> 施事+V+受事または与事

例:老师 指导 论文
先生 指導する 論文 (先生が論文を指導する)

例:老师 指导 学生
先生 指導する 学生 (先生が学生を指導する)

4. 二項自動詞の格フレーム

二項自動詞: 自発的な事態を表す二項動詞 (事態の影響が直接客体に及ばない)

<14> 施事+V+同事

例:哥哥 联络 朋友
兄 連絡する 友達 (兄が友達に連絡する)

<15> 施事+V+原因

例:老太太 愁 路费
おばあさん 心配する 旅費 (おばあさんが旅費を心配する)

- <16> 施事+V+与事
 例: 乘务员 服务 顾客
 乘务員 サービスする お客 (乗務員がお客にサービスする)
- <17> 施事+V+系事
 例: 他 担任 指挥
 彼 務める コンダクター (彼がコンダクターを務める)
- <18> 施事+V+目的
 例: 青年 追求 知识
 青年 追求する 知識 (青年が知識を追求する)
- <19> 施事+V+依拠
 例: 工厂 遵照 指示
 工場 従う 指示 (工場が指示に従う)
- <20> 施事+工具+V
 例: 司机 拿 汽车 撒气 ["拿"は、前置詞]
 運転手 で 車 八つ当たりする (運転手が車に八つ当たりする)
- <21> 施事+V+工具
 例: 孩子 玩儿 游戏机
 子供 娛樂活動をする ゲーム機 (子供がゲームをする)
- <22> 施事+V+時間
 例: 学生 熬 夜
 学生 辛抱する 夜 (学生が徹夜する)
- <23> 施事+V+方式
 例: 弟弟 打 零工
 弟 従事する アルバイト (弟がアルバイトをする)
- <24> 施事+V+範圍
 例: 她 比 颜色
 彼女 比べる 色 (彼女が色を比べる)
- <25> 施事+V+处所
 例: 游客 登 长城
 観光客 登る 万里の長城 (観光客が万里の長城に登る)
- <26> 施事+V+处所または時間
 例: 队伍 过 河
 部隊 渡る 川 (部隊が川を渡る)
 例: 队伍 过 春节
 部隊 過ごす 春節 (部隊が春節を過ごす)
- <27> 处所+V+施事
 例: 门后 闪 出 一个人 ["出"は、方向補語として働く動詞]
 ドアの陰 突然現れる 出る 1人 (ドアの陰から人が突然現れる)

5. 二項外動詞の格フレーム

二項外動詞: 非自発的な事態を表す二項動詞 (事態の影響が直接客体に及ぶ)

<28> 当事+V+受事

例: 课程 包括 选修课
カリキュラム 含む 選択科目 (カリキュラムに選択科目が含まれる)

<29> 当事+V+結果

例: 他俩 产生 分歧
彼ら2人 生じる 食い違い (彼ら2人の間に食い違いが生じる)

<30> 当事+V+客事

例: 孩子 害怕 猫
子供 怖がる 猫 (子供が猫を怖がる)

<31> 当事+V+客事または処所

例: 伤 着 水
傷 触れる 水 (傷が水に触れる)

例: 脚 着 地
足 着く 地面 (足が地面に着く)

<32> 処所+V+客事

例: 会议室 容纳 二百人
会議室 収容する 200人 (会議室が200人を収容する)

6. 二項内動詞の格フレーム

二項内動詞: 非自発的な事態を表す二項動詞 (事態の影響が直接客体に及ばない)

<33> 当事+V+範囲

例: 画家 擅长 山水画
画家 優れる 山水画 (画家が山水画に優れる)

<34> 当事+V+工具

例: 狗 挨 鞭子
犬 こうむる 鞭 (犬が鞭で打たれる)

<35> 当事+V+数量

例: 收入 翻 一倍
収入 倍増する 1倍 (収入が倍になる)

<36> 当事+V+処所

例: 黄河 发源 于 青海 [“于”は前置詞]
黄河 源を発する に 青海 (黄河が青海に源を発する)

<37> 処所+V+当事

例: 玉米地 闹 蝗虫
トウモロコシ畑 発生する イナゴ (トウモロコシ畑でイナゴが発生する)

<38>時間または処所+V+当事

- 例:唐朝 有 诗人
唐代 ある 詩人 (唐代に詩人がいる)
- 例:院子 有 树
中庭 ある 木 (中庭に木がある)

7. 二項領属動詞の格フレーム

二項領属動詞:所有関係を表す二項動詞

<39>領事+V+客事

- 例:物体 具有 重量
物体 持つ 重さ (物体が重さを持つ)

<40>領事+V+分事

- 例:小说 富有 戏剧性
小説 富む ドラマ性 (小説がドラマ性に富む)

<41>領事+V+客事または分事

- 例:儿子 有 玩具
息子 持つ 玩具 (息子が玩具を持つ)

- 例:蜻蜓 有 翅膀
トンボ 持つ 羽 (トンボが羽を持つ)

<42>客事+V+領事

- 例:财产 属于 大家
財産 属する みんな (財産がみんなのものだ)

<43>分事+V+領事

- 例:通县 属 北京市
通県 属する 北京市 (通県が北京市に属する)

8. 二項系属動詞の格フレーム

二項系属動詞:繫辞にあたる二項動詞

<44>当事+V+客事

- 例:他 是 教师
彼 だ 教員 (彼が教員だ)

<45>当事+V+系事

- 例:红色 代表 危险
赤 示す 危険 (赤が危険を示す)

三、三項動詞の格フレーム

9. 三項他動詞の格フレーム

三項他動詞: 自発的な事態を表す三項動詞 (事態の影響が直接客体に及ぶ)

<46> 施事+V+与事+受事

例: 女儿 告诉 妈妈 一个秘密

娘 告げる 母親 1つの秘密 (娘が母親に秘密を告げる)

<47> 施事+V+受事+与事

例: 医生 转交 包裹 给 病人

医者 動次で渡す 小包 に 患者 ["給"は前置詞]
(医者が小包を患者に渡す)

<48> 施事+与事+V+受事

例: 我 给 他 介绍 对象

私 に 彼 紹介する 結婚相手 ["給"は前置詞]
(私が彼に結婚相手を紹介する)

<49> 施事+V+受事+系事

例: 大家 称 熊猫 国宝

みんな 言う パンダ 国宝 (みんながパンダを国宝と言う)

<50> 施事+V+受事+範囲

例: 警察 盘问 行人 经过

警察 尋ねる 通行人 経緯 (警察が通行人に経緯を尋ねる)

<51> 施事+受事+V+材料または工具

例: 厨师 把 鸡 过 油

コック を 鶏 ある処理を経る 油 ["把"は前置詞]
(コックが鶏を油通しする)

例: 粮库 把 高粱 过 秤

食糧倉庫 を コーリャン 処理を経る はかり ["把"は前置詞]
(食糧倉庫の従業員がコーリャンをはかりにかける)

<52> 施事+V+与事+結果

例: 厂长 安 小张 一个罪名

工場長 着せる 張さん 1つの罪名 (工場長が張さんに罪を着せる)

<53> 施事+同事+V+結果

例: 张三 跟 局长 攀 亲戚

張三 と 局長 婚姻や親戚関係を結ぶ 親戚 ["跟"は前置詞]
(張三が局長と親戚関係を結ぶ)

上述した格フレームの53タイプのうち、

<5> 施事+V+受事または系事 (V=二項他動詞)

<26> 施事+V+処所または時間 (V=二項自動詞)

<31> 当事+V+客事または処所 (V=二項外動詞)

<38> 時間または処所+V+当事 (V=二項内動詞)

<41> 領事+V+客事または分事 (V=二項領属動詞)

<51> 施事+受事+V+材料または工具 (V=三項他動詞)

などの14タイプは、その必須格のあり方に2通りの可能性がある。ここでは、

<5> 施事+V+受事または系事 (V=二項他動詞)

を例として、説明する。

“演”は、<5>を持つ動詞であるが、(5)が示すように、その必須格は、施事と受事である場合と、施事と系事である場合がある。

系事=主体の類別, 身分, 役割

- (5) a 演员 || 演 喜劇
 俳優 演じる 喜劇 (俳優が喜劇を演じる)
 施事 受事 必須格
- b 演员 || 演 主角
 俳優 演じる 主角 (俳優が主角を演じる)
 施事 系事 必須格

“演”は、必須格が施事と受事である場合、劇、映画などの芸能を行うことを表しているが(5a)、必須格が施事と系事である場合、劇、映画などで役を務めることを表している(5b)。

ただし、辞書では、「劇、映画などの芸能を行うこと」と、「劇、映画などで役を務めること」が“演”の同じ“义项”(見出しの下に意味によって配列した項目。意味の区分。)にまとめられることが多い。例えば、大型の《汉语大词典(第六卷)》では、“演”のこの“义项”は、

“表演技艺, 或在戏剧、电影中扮演角色”(芸を演じる。或いは、劇、映画で役を務める。)と記述されている。中型の《古今汉语词典》, 《现代汉语规范词典(第3版)》, 《现代汉语词典(第6版)》では、それぞれ次のように記述されている。

“当众显示技艺, 扮演”(みんなの前で芸を披露する。扮する。)

“表演; 扮演”(芸を演じる。扮する。)

“表演技艺; 扮演”(芸を演じる。扮する。)

《(人机通用)现代汉语动词大词典》においても、劇、映画などの芸能を行うことを表し、必須格が施事と受事である“演”と、劇、映画などで役を務めることを表し、必須格が施事と系事である“演”とは、同じ“义项”にあるとされ、その格フレームは、“施事+演+受事または系事”と表示されている。

このように、“演”のような動詞の格フレームは、

<5> 施事+V+受事または系事 (V=二項他動詞)

というタイプに分類されることになった。

ちなみに、格フレームのタイプは、動詞の性質、並びに必須格の種類及び数を示してくれる一方、その配列が当該格フレームのタイプを持つ動詞と必須格を付与され

る語句とが構成する基本語順¹の句の配列と一致している。例えば、

<25>施事+V+処所 (V=二項自動詞)

の配列は、(6)のように、<25>を持つ動詞“登”，施事を付与される語句“游客”，処所を付与される語句“长城”が構成する基本語順の句の配列と一致している。

処所=事態の起こる場所, 状況, 及び経過域

(6) <25>施事+V+処所 (V=二項自動詞)

↓ ↓ ↓
 游客 || 登 长城
 観光客 登る 万里の長城 (観光客が万里の長城に登る)

4 二項動詞性主述句の意味構造

<20>を除く²，<3~19, 21~45>を持つ二項動詞は目的語としての語句とともに

{_{述語} 動詞性語句} {_{目的語} 語句}

という形式の述目句を構成している。この述目句はさらに主語としての語句とともに

{_{主語} 語句} { {_{述語} 動詞性語句} {_{目的語} 語句} }

という形式の二項動詞性主述句を構成している。

こうした二項動詞性主述句は、<3~19, 21~45>を持つ二項動詞が構成する基本語順の句であり、主語と目的語のさす実体の深層格は<3~19, 21~45>の配列で分かる。

本章の目的は、述目句の意味構造を分析することであるが、まずは述目句を含む二項動詞性主述句を分析することにする。二項動詞性主述句の意味構造が分かれば、述目句の意味構造も分かるようになる。

紙幅の関係で、ここでは、<3~19, 21~45>から次の6タイプを選んで、それら

1 ここで言う基本語順とは、動詞と必須格を付与される語句とが構成する句の最も自然な語順のことである。例えば、(6)の動詞“登”，施事を付与される語句“游客”，処所を付与される語句“长城”が構成する句には、3通りの語順があり得る。

① “游客観光客 登登る 了た 长城万里の長城” (観光客が万里の長城に登った)

② “游客観光客 长城万里の長城 登登る 了た” (観光客，万里の長城には登った)

③ “长城万里の長城 游客観光客 登登る 了た” (万里の長城，観光客は登った)

このうち①が最も自然な語順であり、これがすなわち基本語順である。

① “游客観光客 登登る 了た 长城万里の長城”

2 <20>を持つ二項動詞には、例えば、“撒气” (八つ当たりする) がある。

司机 || [拿 汽车] 撒气
 運転手 で 車 八つ当たりする (運転手が車に八つ当たりする)

この<20>の二項動詞は、次の形式の動詞性主述句を構成するが、目的語がないので、述目句は構成しない。

{_{主語} 語句} { {_{連用修飾語} 前置詞+語句} {_{述語} 動詞性語句} }
 {_{主語} 司机} { {_{連用修飾語} 拿+汽车} {_{述語} 撒气} }

を持つ二項動詞が構成する二項動詞性主述句の意味構造を分析する。

この6タイプは、林・王・孫（編）（1994）の《（人机通用）现代汉语动词大词典》、孟・鄭・孟・蔡（1999）の《汉语动词用法词典》、及び筆者の考察から、出現頻度の高い、或いは日本語との対比において、特徴のあるものであると考えられる。

- <3> 施事+V+受事 (V=二項他動詞)
- <4> 施事+V+結果 (V=二項他動詞)
- <21> 施事+V+工具 (V=二項自動詞)
- <23> 施事+V+方式 (V=二項自動詞)
- <30> 当事+V+客事 (V=二項外動詞)
- <37> 処所+V+当事 (V=二項内動詞)

施事=自発的な動作, 行為, 状態の主体

受事=自発的な動作, 行為に関わる客体

結果=生じたり, 引き起こしたり, 達成したりした結果

工具=使われる道具

方式=使われる方法, 形式

当事=非自発的な動作, 行為, 状態の主体

客事=非自発的な動作に関わる客体

処所=事態の起こる場所, 状況, 及び経過域

4.1 <3> 施事+V+受事 (V=二項他動詞)

<3> 施事+V+受事 (V=二項他動詞)

を持つのは、以下のような二項他動詞である。

- (7) “安装”（取りつける）, “穿”（着る）, “打”（殴る）, “卖”（売る）, “扔”（捨てる）, “踢”（蹴る）, “洗”（洗う）, “修理”（修理する）, “掩盖”（覆う）, “阅读”（読む）

このような二項他動詞が構成する二項動詞性主述句

{_{主語} 語句} { {_{述語} 動詞性語句} } {_{目的語} 語句}

では、主語のさす実体が主体となり、目的語のさす実体が客体となり、二項他動詞を中核とする述語の表すことが二項他動詞の事態となっている。二項他動詞の事態は、自発的でその影響が直接客体に及ぶものである。

主体と客体の深層格は、<3>の配列で分かるように、それぞれ施事と受事である。<3>を持つ二項動詞が構成する二項動詞性主述句は、

_{施事} 主体 — _{二項他動詞} 事態 — _{受事} 客体

という意味構造を持っている。

この意味構造の図示は、図1のようになる。

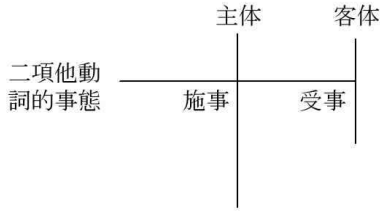


図1 格フレーム<3>を持つ二項動詞が構成する二項動詞性主述句の意味構造の図示

図1では、水平線が二項他動詞的事態を示し、中央の垂直線が主体を示し、右側の垂直線が客体を示し、水平線と垂直線との交点または接点のところに書いた“施事”と“受事”がそれぞれ主体の深層格「施事」と客体の深層格「受事」を示している。

具体例 (8)=(4) の意味構造の図示は、図2のようになる。

(8) a 哥哥 || 打 弟弟
兄 殴る 弟 (兄が弟を殴る)

b 运动员 || 踢 球
スポーツ選手 蹴る ボール (スポーツ選手がボールを蹴る)

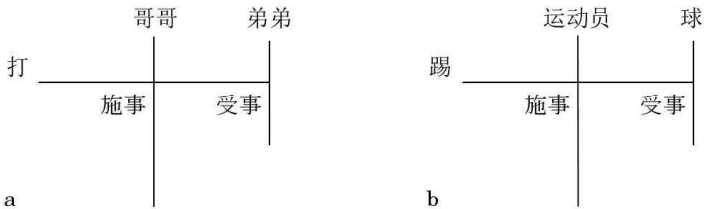


図2 (8a, b) の意味構造の図示

4.2 <4> 施事+V+結果 (V=二項他動詞)

<4> 施事+V+結果 (V=二項他動詞)

を持つのは、以下のような二項他動詞である。

- (9) “編” (編集する), “成立” (創立する), “发明” (発明する),
“画” (描く), “建筑” (建築する), “生产” (生産する), “写” (書く),
“印” (印刷する), “织” (織る), “制造” (製造する)

このような二項他動詞が構成する二項動詞性主述句

{主語 語句} {述語 動詞性語句} {目的語 語句}

では、主語のさす実体が主体となり、目的語のさす実体が客体となり、二項他動詞を中核とする述語の表すことが二項他動詞的事態となっている。

主体と客体の深層格は、<4>の配列で分かるように、それぞれ施事と結果である。<4>を持つ二項動詞が構成する二項動詞性主述句は、次の意味構造を持っている。

施事—主体—二項動詞的—事態—結果—客体

この意味構造の図示は、図3のようになる。

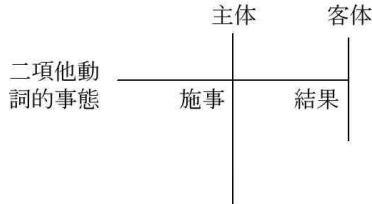


図3 格フレーム<4>を持つ二項動詞が構成する二項動詞性主述句の意味構造の図示

具体例 (10) の意味構造の図示は、図4のようになる。

(10) a 爱迪生 || 发明 电灯
 エジソン 発明する 白熱電球 (エジソンが白熱電球を発明する)

b 画家 || 画 人像
 画家 描く 肖像 (画家が肖像を描く)

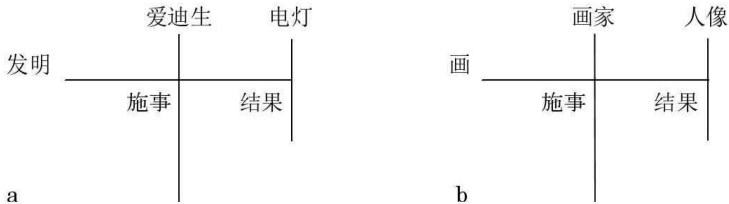


図4 (10a, b) の意味構造の図示

4.3 <21>施事+V+工具 (V=二項自動詞)

《(人机通用)现代汉语动词大词典》には、

<21>施事+V+工具 (V=二項自動詞)

を持つ二項動詞は、“玩儿”(道具で娛樂活動をする)しかない。“玩儿”は、(11)のように、二項動詞性主述句を構成している。

{主語 語句}{述語 動詞性語句}{目的語 語句}
 {主語 孩子}{述語 玩儿}{目的語 游戏机}

(11) 孩子 || 玩儿 游戏机

子供 娛樂活動をする ゲーム機 (子供がゲームをする=子供がゲーム機でゲームをする)

<21>の配列で分かるように、“孩子”と“游戏机”の深層格は、それぞれ施事と工

具である。〈21〉を持つ二項動詞“玩儿”が構成する二項動詞性主述句は、次の意味構造を持っている。

主体—二項自動詞的—事態—工具—客体
 施事—孩子—二項自動詞的—玩儿—工具—游戏机

この意味構造の図示は、図5のようになる。

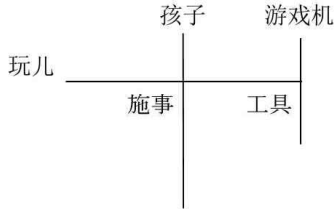


図5 格フレーム〈21〉を持つ二項動詞が構成する二項動詞性主述句の意味構造の図示

4.4 〈23〉施事+V+方式 (V=二項自動詞)

《(人机通用)现代汉语动词大词典》には、

〈23〉施事+V+方式 (V=二項自動詞)

を持つ二項動詞は、“打”(従事する)，“打”(ある手段を取る)，“玩儿”(不正な手段を使う)しかない。これらは、(12)のように、二項動詞性主述句を構成している。

{主語 語句}{述語 動詞性語句}{目的語 語句}

{主語 弟弟}{述語 打}{目的語 零工}

{主語 经理}{述語 打}{目的語 官腔}

{主語 对方}{述語 玩儿}{目的語 花招儿}

- (12) a 弟弟 || 打 零工
 弟 従事する アルバイト (弟がアルバイトをする=弟がアルバイトで働く)
- b 经理 || 打 官腔
 マネージャー 手段を取る 役人口調 (マネージャーが役人口調でしゃべる)
- c 对方 || 玩儿 花招儿
 相手 不正な手段を使う 手管 (相手が手管を弄する=相手が手管で欺く)

〈23〉の配列で分かるように、主体と客体の深層格はそれぞれ施事と方式である。〈23〉を持つ二項動詞“打”(従事する)，“打”(ある手段を取る)，“玩儿”(不正な手段を使う)が構成する二項動詞性主述句は、次の意味構造を持っている。

施事—主体—二項自動詞的—事態—方式—客体

施事—弟弟—二項自動詞的—打—方式—零工

施事—经理—二項自動詞的—打—方式—官腔

施事—对方—二項自動詞的—玩儿—方式—花招儿

この意味構造の図示は、図6のようになる。

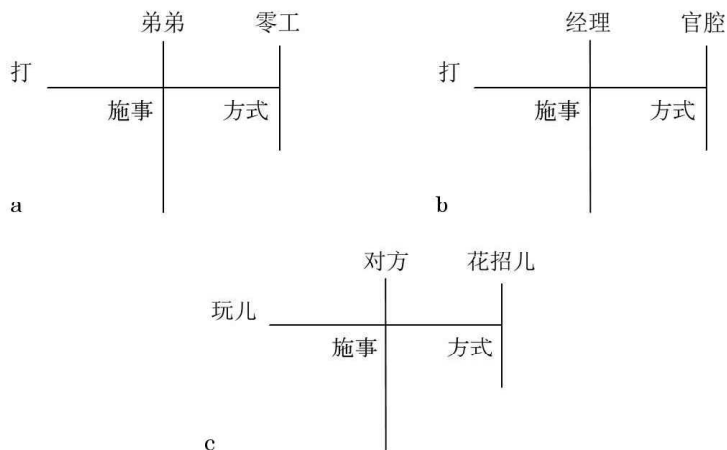


図6 格フレーム<23>を持つ二項動詞が構成する二項動詞性主述句の意味構造の図示

4.5 <30> 当事+V+客事 (V=二項外動詞)

<30> 当事+V+客事 (V=二項外動詞)

を持つのは、以下のような二項外動詞である。

- (13) “符合” (合致する), “害怕” (怖がる), “记得” (覚えている),
 “明白” (分かる), “碰见” (出会う), “缺乏” (欠乏する),
 “听见” (聞こえる), “误解” (誤解する), “像” (似ている),
 “遗失” (遺失する)

このような二項外動詞が構成する二項動詞性主述句

{主語 語句} {述語 動詞性語句} {目的語 語句}

では、主語のさす実体が主体となり、目的語のさす実体が客体となり、二項外動詞を中核とする述語の表すことが二項外動詞的事態となっている。二項外動詞的事態は、非自発的でその影響が直接客体に及ぶものである。

主体と客体の深層格は<30>の配列で分かるように、それぞれ当事と客事である。<30>を持つ二項動詞が構成する二項動詞性主述句は次の意味構造を持っている。

当事—主体—二項外動詞的事態—客体

この意味構造の図示は、図7のようになる。

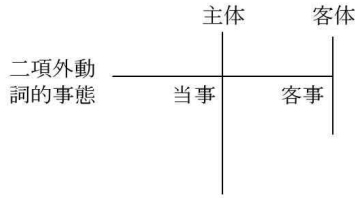


図7 格フレーム<30>を持つ二項動詞が構成する二項動詞性主述句の意味構造の図示

具体例 (14) の意味構造の図示は、図8のようになる。

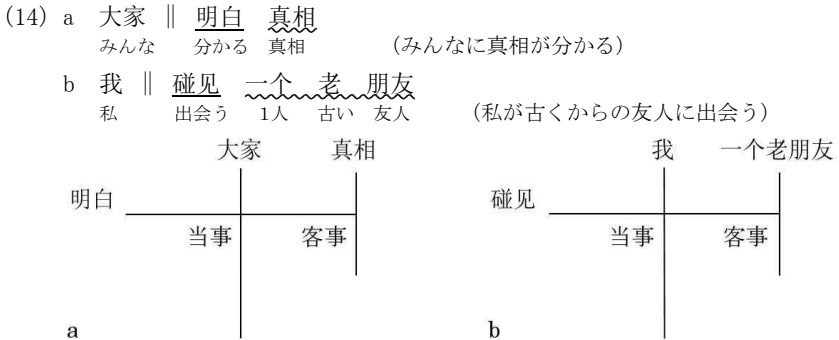


図8 (14a, b) の意味構造の図示

4.6 <37> 処所+V+当事 (V=二項内動詞)

<37> 処所+V+当事 (V=二項内動詞)

を持つのは、以下のような二項内動詞である。

- (15) “陈列” (陳列する), “充满” (満ちる), “发生” (起こる),
 “挂” (附着する), “闹” (発生する), “悬挂” (掛かる)

このような二項内動詞が構成する二項動詞性主述句

{_{主語} 語句} {_{述語} 動詞性語句} {_{目的語} 語句}

では、主語と目的語のさす実体の深層格は、<37>の配列で分かるように、それぞれ処所と当事である。

ただし、<3, 4, 21, 23, 30>を持つ二項動詞が構成する二項動詞性主述句と違って、<37>を持つ二項動詞が構成する二項動詞性主述句では、当事を付与される目的語のさす実体が処所を付与される主語のさす実体より認識されやすいので、目的語のさす実体が主体となり、主語のさす実体が客体となっている。

<37>を持つ二項動詞が構成する二項動詞性主述句は次の意味構造を持っている。

主体—^{二項内動詞的}事態—^{処所}客体

この意味構造の図示は、図9のようになる。

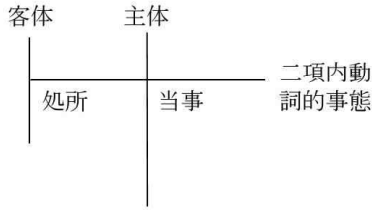


図9 格フレーム<37>を持つ二項動詞が構成する二項動詞性主述句の意味構造の図示

具体例 (16) の意味構造の図示は、図10のようになる。

(16) a 她的眼里 || 充满 泪水

彼女の目中 満ちる 涙 (彼女の目に涙が溢れる)

b 玉米地 || 闹 蝗虫

トウモロコシ畑 発生する イナゴ (トウモロコシ畑でイナゴが発生する)

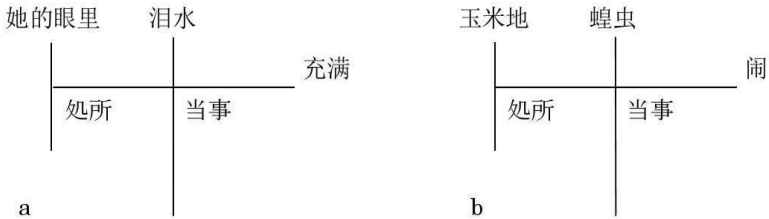


図10 (16a, b) の意味構造の図示

5 まとめ—述目句の意味構造

4節では、<3, 4, 21, 23, 30, 37>を持つ二項動詞が構成する二項動詞性主述句を考察した。述目句は、二項動詞性主述句に含まれているので、二項動詞性主述句の意味構造が分かれば、述目句の意味構造も分かるようになる。

例えば、<3>を持つ二項動詞が構成する二項動詞性主述句

{_{主語} 語句} { {_{述語} 動詞性語句 } {_{目的語} 語句 } }

は、

施事—主体—^{二項他動詞的}事態—^{受事}客体

という意味構造を持っているので、それに含まれる述目句

{_{述語} 動詞性語句 } {_{目的語} 語句 }

の意味構造は、

^{二項他動詞的} 事態—^{受事} 客体

となっている。

その図示については、述目句の意味構造中に主語のさす実体（主体または客体）が現れないので、図11のように、それを破線で表示することにし、これを述目句の意味構造の図示とする。

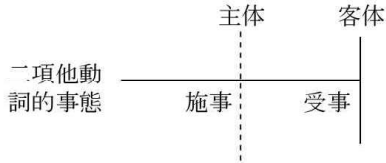


図11 格フレーム<3>を持つ二項動詞が構成する述目句の意味構造の図示

ここで、<3, 4, 21, 23, 30, 37>を持つ二項動詞が構成する二項動詞性主述句、及びそれらに含まれる述目句の意味構造、図示を表3(1,2)にまとめておく。

表3(1) 二項動詞性主述句と述目句の意味構造, 及びその図示(1)

二項動詞性主述句 {主語 語句} { {述語 動詞性語句} {目的語 語句} }	述目句 {述語 動詞性語句} {目的語 語句}
“<3>施事+V+受事 (V=二項他動詞)” を持つ二項動詞	
施事 主体 — 二項他動詞的 事態 — 受事 客体	二項他動詞的 事態 — 受事 客体
<p>図示</p>	<p>図示 (実線部分)</p>
“<4>施事+V+結果 (V=二項他動詞)” を持つ二項動詞	
施事 主体 — 二項他動詞的 事態 — 結果 客体	二項他動詞的 事態 — 結果 客体
<p>図示</p>	<p>図示 (実線部分)</p>
“<21>施事+V+工具 (V=二項自動詞)” を持つ二項動詞	
施事 主体 — 二項自動詞的 事態 — 工具 客体	二項自動詞的 事態 — 工具 客体
<p>図示</p>	<p>図示 (実線部分)</p>

表3(2) 二項動詞性主述句と述目句の意味構造，及びその図示(2)

“<23>施事+V+方式 (V=二項自動詞)”を持つ二項動詞	
施事 主体—二項自動詞的 事態—方式 客体	二項自動詞的 事態—方式 客体
<p>図示</p>	<p>図示 (実線部分)</p>
“<30>当事+V+客事 (V=二項外動詞)”を持つ二項動詞	
当事 主体—二項外動詞的 事態—客事 客体	二項外動詞的 事態—客事 客体
<p>図示</p>	<p>図示 (実線部分)</p>
“<37>処所+V+当事 (V=二項内動詞)”を持つ二項動詞	
当事 主体—二項内動詞的 事態—処所 客体	当事 主体—二項内動詞的 事態
<p>図示</p>	<p>図示 (実線部分)</p>